

旭山の復旧

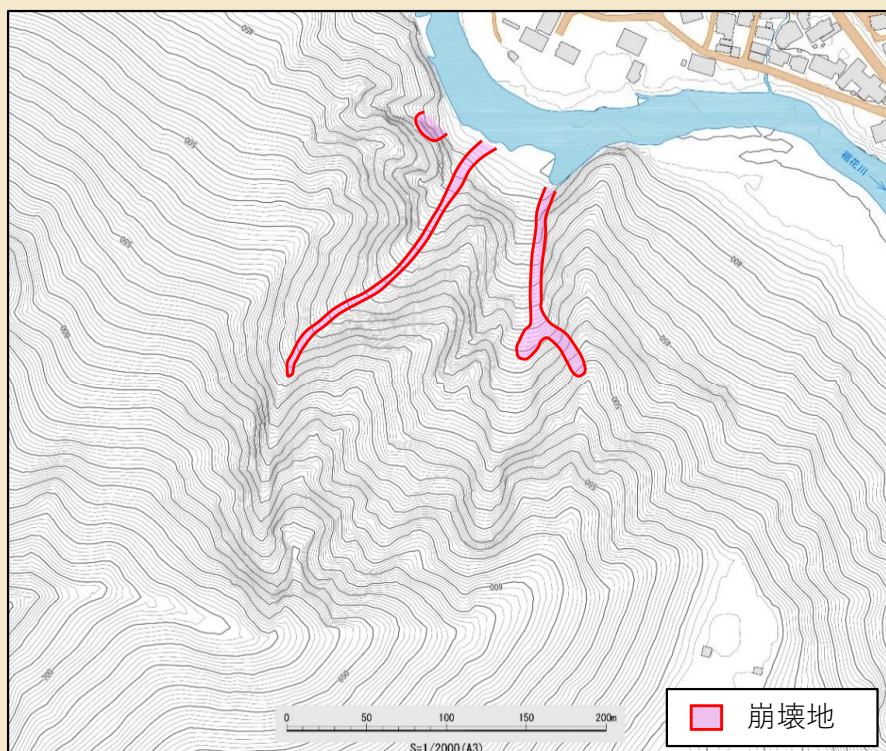
山の中で何を
しているの？

長野市に位置する旭山の北側山腹斜面（朝日山国有林）の地表は、風雨や日光にさらされて岩石が変質し、もろくなりやすい地質のため、以前から崩壊と復旧を繰り返していました。このような中、平成26年11月に長野県北部を震源とする地震（長野市最大震度6弱）を誘因とした山腹斜面の拡大崩壊が発生しました。

そのため、北信森林管理署では地元からの復旧要望も踏まえ、令和4年度より崩壊した山腹斜面の復旧に取り組んでいます。



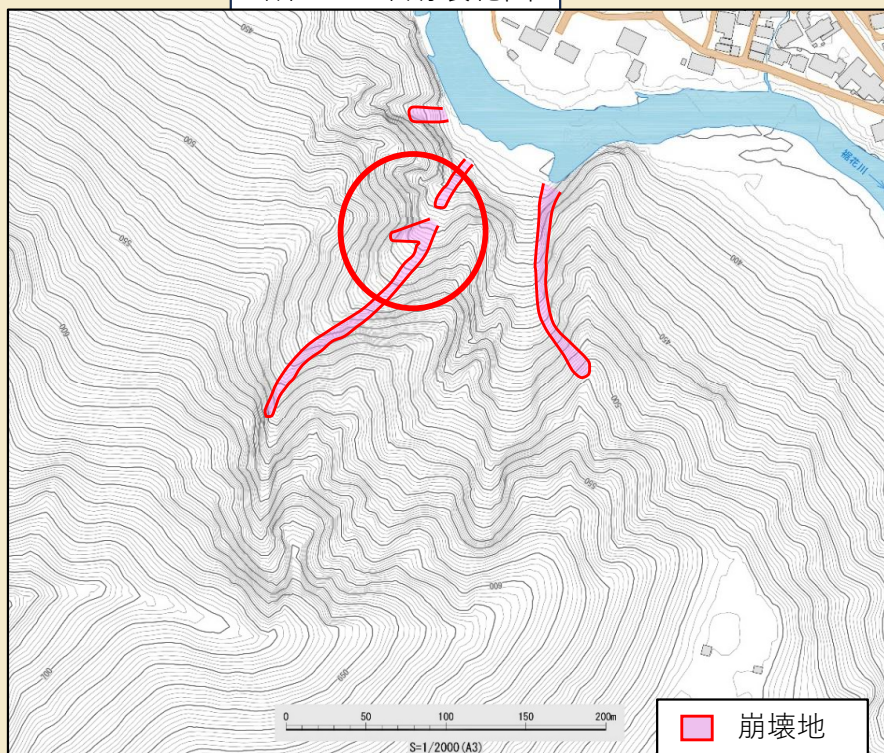
昭和51年撮影空中写真



昭和51年崩壊範囲



平成22年撮影空中写真

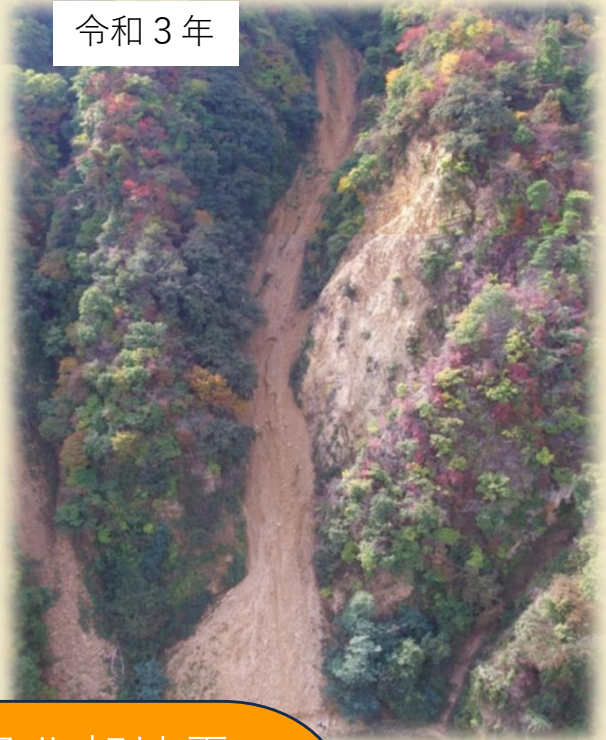


平成22年崩壊範囲

平成17年



令和3年



平成26年長野県北部地震により崩壊が拡大



現在、崩壊地の復旧に取り組んでいます。



現在の復旧箇所



どうやって工事しているの？

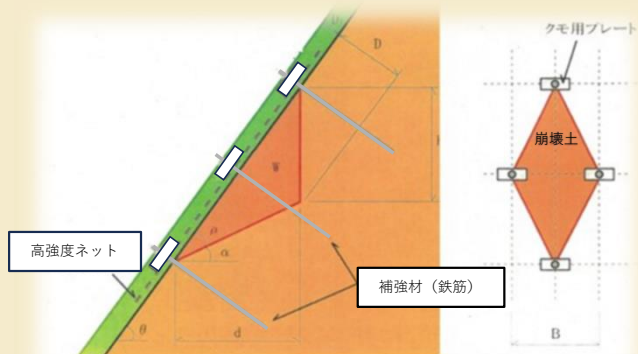
1 斜面整地

凸凹した斜面をワイヤーロープにぶら下がった機械が整地します。



2 ネット工

機械が斜面を整地した後、人がロープにぶら下がり穴掘り機で穴を掘り鉄筋（ロックボルト）を挿入します。最後にネットをかぶせて完成です。



地面に挿入した鉄筋とネットによって斜面の崩壊と落石の発生を防止します。

【復旧までの取組】

- 令和4年度 作業道作設に着手
- 令和5年度 崩壊地内の凹凸を整地し、地面に鉄筋を挿入後上部にネットをかぶせる。
- 令和6年度 引き続き、地面に鉄筋を挿入後上部にネットをかぶせる。
- 令和7年度 引き続き、地面に鉄筋を挿入後上部にネットをかぶせる。

地面に挿入した鉄筋



開設した作業道

既施工面積457m²
R5年～R6年



今後も一日も早い復旧を目指します。